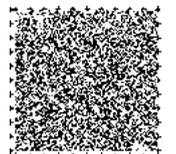


福岡県共助社会づくり 基金ニュース

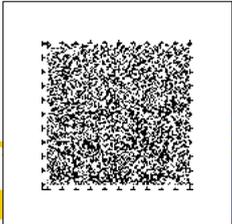
わたしたちは一人じゃない。
笑顔につながる、あたたかい未来。





CONTENTS

福岡県共助社会づくり基金について	2
寄附金の種類・手続き／寄附のメリット	3
ふくおか地域貢献活動サポート事業とは／基金ホームページのご紹介	4
寄附者のご紹介	
イオン九州株式会社／大坪GSI株式会社	5
トヨタL&F福岡株式会社／九州朝日放送株式会社	6
西日本電信電話株式会社 九州支店／ご寄附いただいた皆様	7
令和4年度ふくおか地域貢献活動サポート事業のご紹介	
<自由提案型>	
1. 自立型高齢者住宅のニーズ調査および啓蒙活動 (自立型高齢者住宅推進協議体)	9
2. 子育て期の女性による子育て情報発信とつながりづくり事業 (糸島市ママトコラボ協議体)	10
3. 知ってもらおう、創りだそう、直鞆のたまがる (ヒーリング)	11
4. 車いす陸上選手へのグローブ提供と販売体制の確立 (障害者雇用創出コンソーシアム)	12
5. 地域資源のやまももを育て、伝え、商品の魅力を高める協働事業 (那珂川市やまもも育成事業協議会)	13
6. 日中児童の相互理解、中国人・中国系児童の生活文化向上推進事業 (日中児童多文化交流推進協議体)	14
<テーマ型－災害支援枠>	
1. 変わりゆく社会で新たな防災や災害支援の在り方を検討する事業 (防災グ)	16
2. 情報弱者にグッバイ!「おたすけ手ぬぐい」と心のバリアフリー (防災バリアフリープロジェクト)	17
3. 被災地および未災地における床下浸水対策ノウハウ普及 (チャンネルプロジェクト 2.0)	18
<テーマ型－困難な状況にある子どもの支援枠>	
1. 子どもの居場所「スペース虹」事業 (スペース虹協議体)	20
2. 子どもと家庭と地域の循環事業 (カルドキッチン)	21
3. 私をキャンプに連れてって!東峰村での日帰りキャンプと農業体験 (里山で育む子どもの生き抜くカプロジェクト実行委員会)	22



福岡県共助社会づくり基金について

福岡県では、NPO・ボランティアや企業、行政などの多様な主体が地域の課題を解決するため、互いに支えあい、共に助け合う「共助社会」の実現を目指しています。

福岡県共助社会づくり基金は、この趣旨にご賛同いただいた県民や企業の皆さんの思いを「寄附」という形でお預かりし、NPO・ボランティアが多様な主体と協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へとつなぐ基金です。

特徴 1

寄附者の思いを受けとめます

「広く地域課題の解決を図る取組を応援したい」という県民や企業の皆さんから「寄附」をお受けします。寄附者が応援したい活動分野やテーマを指定して寄附することもできます。

特徴 2

課題解決に取り組むNPOへとつなぎます

お預かりした寄附は、NPOが多様な主体と協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へ助成を行う「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。NPOから協働事業の企画案を募集し、審査を経て助成対象となる協働事業を決定します。原則として、前年度にいただいた寄附を翌年度の「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。

特徴 3

事業の成果をお知らせします

NPOにより実施された協働事業の成果は、成果発表会の開催や報告書「福岡県共助社会づくり基金ニュース」の発行などを通じて、広く県民の皆さんにお知らせします。

特徴 4

寄附された方のお名前を公表します

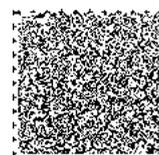
寄附者のお名前(企業名)は、広く県民の皆さんに公表します。
詳しくは3ページをご覧ください。

特徴 5

寄附者は税制上の優遇措置が受けられます

福岡県共助社会づくり基金へのご寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。
詳しくは3ページをご覧ください。

基金のしくみ



寄附金の種類 / 寄附の手続き

普通寄附金

共助社会づくりの活動を広く応援したい場合

テーマ型寄附金

特定のテーマを応援したい

※個別のテーマ指定ができるのは50万円から

テーマの
内容については
ご相談ください!

テーマ例: 過去に実施したテーマはこちら

環境保全活動、地震・豪雨災害の被災地支援、困難な状況にある子どもの支援

1. ご相談



まずはコラボステーション
福岡にご相談ください。

2. お申し込み



寄附金申込書をお送りしま
す。ご記入後、郵便・ファック
ス・電子メールのいずれかで
お申し込みください。

3. 払い込み



振込手数料はかかりません

福岡県から納付書を送付い
たしますので、お近くの金融
機関でお振込みください。

寄附をすることで、2つのメリットがあります

■ 税制上の優遇措置を受けることができます

企業の場合 資本金の額にかかわらず、寄附金の全額を損金算入することができます。

個人の場合



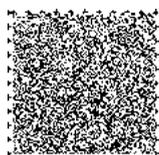
所得税	[寄附金額の合計額 - 2,000円] × 所得税の税率 ※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の40%が上限です。
個人住民税	①基本控除 [寄附金額 - 2,000円] × 10% ※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の30%が上限です。 ②特例控除 1. [寄附金額 - 2,000円] × [100% - 10%(基本分) - 所得税の税率] ※この特例分が住民税所得割額の2割を超えない場合 2. (住民税所得割額) × 20% ※この特例分が住民税所得割額の2割を超える場合
相続税	相続または遺贈により取得した財産を申告期限内に一定の要件を満たし、寄附した場合、その寄附をした財産は、相続税の課税価格の計算に算入されません。

ご確認ください

- 税制上の優遇措置を受けるには、所得税の確定申告が必要です。
- 具体的な控除の額は、各担当部署へお問い合わせください。
 - ・所得税について……………最寄の税務署
 - ・個人住民税について……お住まいの市区町村税務課

■ お名前を公表させていただきます

ご寄附いただいた方のお名前を「福岡県共助社会づくり基金ニュース」や「福岡県共助社会づくり基金ホームページ」に掲載させていただきます。(匿名とすることも可能です)



ふくおか地域貢献活動サポート事業とは

「福岡県共助社会づくり基金」を活用して、NPO・ボランティアが行政、地域コミュニティ、企業などの多様な主体と協働して、地域課題の解決に取り組む社会貢献活動を応援する助成事業です。県が協働事業の企画案を募集し、外部有識者による審査を経て、補助金の交付対象となる事業を決定します。

応募対象：NPO等（特定非営利活動法人・ボランティア団体、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人）及び行政、地域コミュニティ、企業などを構成員に含む団体

自由提案型 普通寄附金 を活用し、自由で先進的な発想や専門的なノウハウ等を活かした公益性の高い活動分野を限定しない事業
令和4年度：6件 詳細は9ページから14ページ

テーマ型 テーマ型寄附金 を活用した、寄附者の意向による一定のテーマに基づく協働事業
令和4年度：テーマ「豪雨災害の被災地支援活動」
3件 詳細は16ページから18ページ
テーマ「困難な状況にある子どもの支援活動」
3件 詳細は20ページから22ページ

事業スケジュール ※年度によって変わることがあります



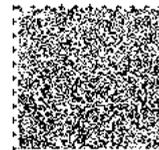
福岡県共助社会づくり基金ホームページのご紹介

このホームページでは、今までにご寄附をいただいた寄附者の皆様や、寄附金の活用実績、サポート事業募集情報などを掲載しています。共助社会づくり基金への寄附を検討されている方、NPO・ボランティア団体に取り組む協働事業を応援したい方、ぜひ一度「福岡県共助社会づくり基金ホームページ」をご覧ください。

<https://www.kifu.pref.fukuoka.lg.jp>



是非
ご覧ください



イオン九州株式会社

【企業紹介】

イオン株式会社は2010年から、「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念の実践のため、全国各地の地域行政と協働し、防災・福祉・環境保全の推進や150券種を超える「ご当地WAON」などを活用した商業・観光の振興など、さまざまな分野で双方が持つ資源を有効に活用するための協定を締結し、活動を展開しています。

イオンと福岡県は、2012年4月に包括連携協定を締結し、福岡県の活性化と県民サービスの向上に協働で取り組んでいます。その取組のひとつが「ふくおか共創WAONカード」です。これは、全国のイオンのお店や加盟店で使える電子マネーカードで、利用額の0.1%を「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPO・ボランティア団体と企業、行政などの多様な主体との協働による「共助社会づくり」に役立ててもらおうものです。この仕組みを御理解いただいた上で、「ふくおか共創WAON」の利用者が増え、寄附の好循環が生まれるように、今後とも地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続けることを目指していきます。



令和4年11月 イオン九州株式会社からの寄附金贈呈式
 (写真左から イオン九州株式会社 末次伊佐武北福岡事業部事業部長、イオン九州株式会社 柴田祐司代表取締役社長、服部誠太郎福岡県知事、イオン九州株式会社 戸簾耕作南福岡事業部サポート部長)

イオン九州株式会社九州エリア政策推進部長の貴島昇さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

貴島さん
 NPOやボランティアのみなさんが、企業や学校、行政など多様な主体と一緒にあって、子育て支援、地域活性化など様々な事業に取り組まれており、いずれの事業も「共助社会づくり」につながる素晴らしい取組だと感じています。
 イオングループでは、「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念の実践のため、地域に密着した活動を続けており、「ご当地WAON」もその一環として取り組ませていただいております。寄附金についても、様々な地域貢献につながる事業に活用していただけると非常に嬉しく思います。



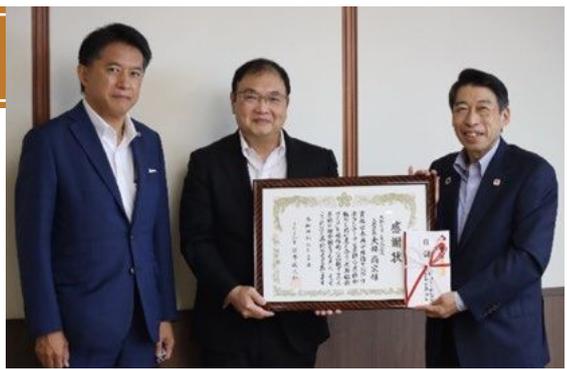
福岡県のご当地WAON「ふくおか共創WAONカード」
 「Apple PAY」も対応
 ※寄附の対象となります

大坪GSI株式会社

【企業紹介】

大坪GSI株式会社は、柳川市に本社を構え、「世の為」「人の為」「地域のため」にどのような貢献ができるか希求し、産業廃棄物処理・リサイクル事業、採石・砕石事業、運送業、土木解体業を営んでいます。

県内にある企業として、県の地域課題解決に協力したいと考えており、「福岡県共助社会づくり基金」の理念に共感し、2021年から寄附を行っています。

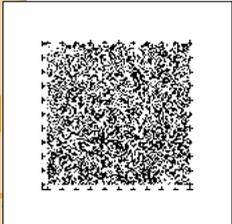


令和4年6月 大坪GSI株式会社からの寄附金贈呈式
 (写真左から 板橋聡福岡県議会議員、大坪GSI株式会社 大坪尚宏代表取締役、服部誠太郎福岡県知事)

大坪GSI株式会社代表取締役の大坪尚宏さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

大坪さん
 自由提案型に活用いただいておりますが、それぞれの団体の強みや地域資源を活かしながら、地域課題の解決に向けた様々な活動が展開されており、嬉しく思います。
 大坪GSI株式会社としても、皆様に寄り添い、皆様の困りごとを解決すべく、事業を続けてまいりたいと思っております。



トヨタL&F福岡株式会社

【企業紹介】

トヨタL&F福岡株式会社は、福岡市に本社を置き、物流現場や倉庫などの保管・搬送に関わる産業車両やシステム、機器の販売・点検を行っています。2009年に創立40周年を記念してお客様より頂戴した、フォークリフトなど産業車両の定期点検の売り上げの一部を積み立てる「安全・安心・環境基金」を設置し、人々の安全・安心への貢献活動及び労働安全、環境保護活動を支援してきました。

2017年からは、福岡県域で幅広く活動を募集し、助成している「福岡県共助社会づくり基金」に継続的に寄附を行っています。



定期点検の様子

トヨタL&F福岡株式会社にお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

自由提案型に活用いただいています。高齢者や障がい者の支援など、「安全・安心・環境基金」の目的に沿った様々な活動が展開されており、どの活動への支援も、幅広い世代の力になっていて、大変嬉しく思います。今後も、誰もが安全で安心のできる地域の環境づくりに役立てられることを期待しています。



九州朝日放送株式会社

【企業紹介】

九州朝日放送株式会社では、ふるさとの自然環境について、自分たちが暮らす足元から考えていこうと、1997年から「KBC水と緑のキャンペーン」をスタートさせました。KBCのテレビ、ラジオ、イベントなどを通じて環境保護の大切さを訴えるとともに、「KBC水と緑の基金」を募り、視聴者や聴取者の皆様からお預かりした浄財を名木治療や被災地支援に活用してきました。

17回目からは、「福岡県共助社会づくり基金」に寄附をし、NPO・ボランティア団体、企業、行政など多様な主体との協働による環境保護活動や被災地の復興支援などに役立てて頂いています。

26回目となった今回のテーマは「あなたと!」。新型コロナウイルスの感染拡大は私たちの暮らしを一変させました。そうした中でも、環境破壊などの問題は進行しています。私たちが日々の暮らしの中でできることは何か。あなたと一緒に考え、あなたといっしょに行動していきたい、そんなメッセージを込めました。



令和5年2月 九州朝日放送株式会社からの寄附金贈呈式
 (写真左から 九州朝日放送株式会社 和氣靖代表取締役社長、
 服部誠太郎福岡県知事)

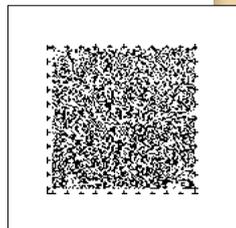
九州朝日放送株式会社総合編成局総合編成部長の川崎浩司さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

川崎さん 災害支援人材の育成や災害時の障がい者支援といった、災害時に明らかになった課題を今後に活かす取り組みに活用いただいております。視聴者・聴取者の皆様からお預かりした寄附金を有効に活用いただいていることを大変嬉しく思います。被災地の復旧・復興にはこれからも息の長い支援が必要ですので、九州朝日放送としてもサポートを継続していければと思います。



第26回KBC水と緑のキャンペーン



西日本電信電話株式会社九州支店

【企業紹介】

西日本電信電話株式会社九州支店では、社会貢献活動の一環として“困難な状況にある子ども支援”に取り組んでいます。社員から食料品・文具・衣類等を募るフードドライブ、災害用備蓄食料品の寄贈などに加え、今回は福岡県共助社会づくり基金への寄附を行わせていただきました。地域で事業を営む企業市民の一員として、地域社会が抱える課題に向き合い共生しながら、より良い未来の創造に向け、今後も積極的・継続的に様々な社会貢献活動に参加してまいります。



令和3年12月 西日本電信電話株式会社からの寄附金贈呈式
 (写真左から 西日本電信電話株式会社 北九州支店 藤塚真二 営業担当課長代理、同社 九州支店 木村聡志主査、同社 九州支店 執行役員 梶原全裕九州支店長、服部誠太郎福岡県知事、株式会社NTTフィールドテクノ 永田徹主査)

西日本電信電話株式会社九州支店事業推進室総務グループ長の植松圭子さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

植松さん

寄附を活用いただいた3つの取り組みについて、社員の代表者とともに実際に活動現場にお伺いし、現場の様子を拝見しました。いずれも、子どもたちのためにという熱い思いのもと活動されており、不登校や体験機会の喪失など子どもたちを取り巻く厳しい状況について実態を知ることができました。現場でのお話や、寄附金の具体的な活用先については社内TVニュースにて配信し、社員一人ひとりの貴重な学びとなりました。今後も社員一丸となって支援に取り組んでまいります。



ご寄附いただいた皆様

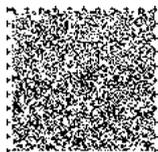
ご支援をいただき
ありがとうございます
ございました。

イオン九州株式会社 (令和4年4月)	5,189,925円	自由提案型
株式会社ダイエー (令和4年4月)	232,863円	自由提案型
トヨタL&F福岡株式会社 (令和4年4月)	648,080円	自由提案型
大坪GSI株式会社 (令和4年5月)	1,000,000円	自由提案型
九州朝日放送株式会社 (令和4年1月)	2,056,979円	災害支援枠
西日本電信電話株式会社九州支店 (令和3年12月)	3,657,000円	子どもの支援枠

寄附金額合計

12,784,847円

※括弧内は寄附金納付年・月





自由提案型

寄附者

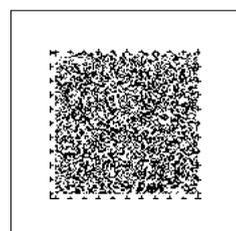
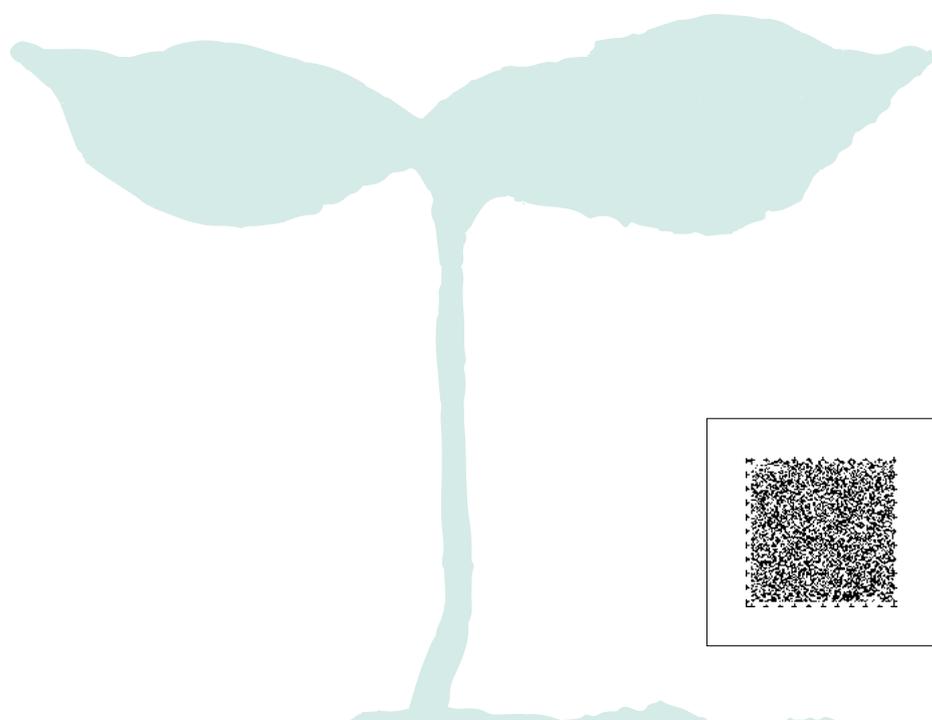
イオン九州株式会社

株式会社ダイエー

大坪GSI株式会社

トヨタL&F福岡株式会社

西部ガスホールディングス株式会社



自立型高齢者住宅のニーズ調査および啓蒙活動

協議体 自立型高齢者住宅推進協議体

所 在：福岡市博多区博多駅東1丁目12-5博多大島ビル503

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人高齢者健康コミュニティ
企画運営・アンケート調査企画
- ◆ 社会医療法人天神会
セミナー企画・運営、アンケート調査分析
- ◆ 医療福祉経営マーケティング研究会
アンケート調査やプロジェクトへの助言

〈問い合わせ先〉

◆ 特定非営利活動法人高齢者健康コミュニティ

住所 福岡市博多区博多駅東1丁目12-5博多大島ビル503

TEL 092-292-3333 FAX 092-292-3334

メール kubota@hc-market.net HP・SNS等 <https://jpcrc.org/>



第1回セミナー風景(対象:医療・介護関係者)web参加者80名

課題・背景・目的

世界一の高齢社会国である日本において、現在では、健康寿命の延伸や介護重度化の予防が提唱されてきているが、これまで、最期まで安心した医療介護を受けるための介護施設を中心に整備がされ、健康寿命を延ばしたい「自立ニーズ」や必要な支援を受け可能な限り自立したい「支援ニーズ」に応えるための自立型高齢者住宅の整備はほとんどされていない。

工夫した点

セミナー集客については、まず協議体の目的をこれからの高齢者ケアのあり方「介護2.0」とし、「介護は利用者が主役の時代へ」というコンセプトをチラシ・ポスターで訴求し、特に老人クラブ連合会にPRした。久留米市からセミナーの後援を受け、協力を仰いだ。また、アンケートは内閣府のものを参考にし、質問数を10問としわかりやすくした。

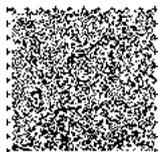
主な取組内容

健康寿命延伸、介護重度化の予防の実現に向け、利用者が主役となり、本人が選択するこれからの高齢者ケアの新しいあり方につながる自立型高齢者住宅啓蒙のためのセミナーを医療介護関係者向け、一般向け(高齢者やその家族、地域の方々など)にそれぞれ開催。その参加者に対して、自立型高齢者住宅のニーズに関するアンケート調査を実施した。

事業の成果・今後の展開

第1回セミナー(12/9)は医療介護関係者100名の参加があり、アンケート回答者は53名であった。その中でも、自立型高齢者住宅の必要性について、「必要と思う」と回答した人は44名(83%)であった。第2回セミナー(2/25)の対象者は高齢者とその家族が中心で、約250名の参加があった。アンケート回答者は176名と関心の高さが分かった。3月中に分析を行う。今後は更に調査、啓蒙活動を継続し、高齢者ケアにおける自立型高齢者住宅の必要性を提唱していく。

主な経費 会場使用料、スタッフ人件費、チラシ・リーフレット作成費



セミナー講師(九州大学医学部馬場園明教授)



第2回セミナー参加者風景(対象:高齢者と家族、一般)

自由提案型 2

子育て期の女性による子育て情報発信とつながりづくり事業

協議体 糸島市ママトコロラボ協議体

所 在：糸島市志摩初

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人ママトコロラボ
講座の企画・運営、広報、講座参加者のネットワーク形成・維持
- ◆糸島市子育て支援課
講座の企画、会場手配支援、市WEBサイト、市報による広報

〈問い合わせ先〉

- ◆一般社団法人ママトコロラボ
メール kouza01@mamatocolab.com
HP・SNS等「糸島ささ日情報局」<https://mamatocolab.com/>



完成した情報紙を手に笑顔の受講生

課題・背景・目的

糸島市では、子育て期の移住者が増加しているにも関わらず、日々の子育てで頼れる人や地域の支援活動、子どもの遊び場などの情報が少なく、情報発信の担い手も不足している。また、コロナ禍で対面でのコミュニケーション機会が減少し、子育て期の女性同士がサポートし合える仲間と知り合い、情報交換をする機会も減少している。

工夫した点

単なる情報紙作成にとどまらず、講座を開催し、受講生による取材・記事作成を行うことで、地域の子育て期の女性のスキルアップを図り、当事者目線での情報発信の担い手の育成を行った。また、受講生同士をビジネスチャットツールでつなぎ、糸島の子育て期の女性が互いに助け合い、支え合う関係づくりを行った。

主な取組内容

本当に役立つ地域の子育て情報発信のため、当事者である子育て期の女性による情報紙作成を企画。「糸島のママが作る！子育て情報紙作成講座」を全8回開催し、取材・記事制作の技術向上を行うとともに、受講生による取材・記事制作の実践を行った。また、講座を通して受講生同士の関係づくりも行った。

事業の成果・今後の展開

子育て情報紙作成講座には10名が参加し、講座で学んだスキルを生かして企画、取材、記事作成を行い、当事者に役立つ情報紙が完成した。完成した情報紙は乳幼児健診で配布するほか、市の施設や協力店舗に配架した。今後も定期的に勉強会を開き、修了生のスキルアップやネットワークのフォローを行うとともに、地域の情報発信を継続する。

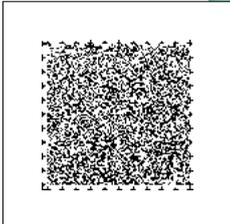
主な経費 講師謝金、スタッフ人件費、チラシデザイン費、情報紙デザイン費、印刷代



紙面企画会議の様子。紙面に載せる情報についてアイデアを出し合った



記事の書き方について熱心に学ぶ受講生ら



知ってもらおう、創りだそう、直鞍のたまがる

協議体 ヒーリング

所 在：鞍手郡鞍手町上木月1037

〈構成団体と役割〉

◆特定非営利活動法人ドッグセラピージャパン
企画・運営、広報

◆PADEAR合同会社
企画・運営、ウェブサイト構築、ウェブ記事作成、広報

◆上木月営農組合、上木月ボランティアの会
地元住民や事業者との協力関係の構築、取材先との連携

〈問い合わせ先〉

◆ヒーリング

住所 鞍手郡鞍手町上木月1037

TEL 0949-28-8252 FAX 0949-28-8253

メール dtj.fukuoka01@gmail.com HP・SNS等 https://dtj.or.jp/dtj_lp/



直鞍(ちよつくら)のたまがるMAP

課題・背景・目的

政令指定都市にはさまれ、駅、高速道路のインターチェンジなど、交通の便が良く、果物の産地として有名な直鞍地区だが、県内外からの来客に対して、観光資源など、直鞍地区を回遊してもらうための情報提供が不足しており、通過型の観光地となっている。

工夫した点

NPOが運営する障がい者就労継続支援施設の利用者とともに取材を行い、利用者の手書きイラストでマップを作成。多様な視点を取り入れるとともに、障がいのある方の職域の拡大を図った。マップについては、イラストの掲載や、取材先からのコメントなど、地域の魅力が分かりやすくなるような工夫をしたほか、犬を連れて利用できるスポットを掲載するなど、特色のあるものとした。

主な取組内容

直鞍地区の観光資源、地域資源を掲載したマップを制作し、地域の魅力発信を実施。地区住民等を集めたミーティングを定期的に開催し、マップの作成や取材先の選定に意見を反映するとともに、来訪者向けの様々な商品、体験プログラムなどについて話し合いを行った。

事業の成果・今後の展開

「直鞍(ちよつくら)のたまがるMAP」を10,000部作成し、公共施設や観光地、マップ掲載店舗等で配布。あわせて、マップのウェブサイトを作成し、より詳細な記事やPR動画などの情報発信を行った。今後も、掲載店舗等に協力を募りながらマップ作成を継続する。

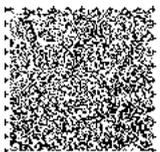
主な経費 人件費、旅費、HP作成費



MAP作成風景



ミーティング



自由提案型 4

車いす陸上選手へのグローブ提供と販売体制の確立

協議体 障害者雇用創出コンソーシアム

所 在：北九州市八幡西区割子川

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター
全体企画、運営、広報
- ◆ 特定非営利活動法人里山を考える会
運営、地元企業や行政への広報
- ◆ NPO法人みんなの職場研究会
3Dプリンタ技術の指導と技術習得

〈問い合わせ先〉

- ◆ 特定非営利活動法人ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター
TEL 080-4637-0644
メール akamatsu@career-i.jp



当日の出展ブースの様子

課題・背景・目的

通勤やオフィス環境などの課題から、障がいのある人にとって就職は、厳しい状況にある。また、既存の分野の仕事に障がい者が雇用される機会も少ない。在宅でも仕事ができる3Dプリンタを使った新しい職域と働き方の開拓を目指し、3Dプリンタで作成した製品の販売体制の確立を図る。

工夫した点

「手作り市場in北九州2022」に出展し、3Dプリンタの実演を交えながら、製作物を販売した。これまで製作してきた障がい者向けの製品だけでなく、キーホルダーやスマホスタンド、クリスマスツリーの置物など、身近なグッズを製作したことで、多くの来場者に手に取ってもらうことができ、取り組みのPRや、製作のモチベーションにつながった。また、手作り市場で販売・接客の体験ができた。

主な取組内容

障がい者に対する3D造形技能習得のためのワークショップを毎週土曜日に開催したほか、「手作り市場in北九州2022」に出展し、作品の展示・販売を実施した。また、3Dプリンタ製品の販売体制確立に向け、車いす陸上選手チームや脊損センターとの協議を進めつつ、地元企業への広報を実施した。

事業の成果・今後の展開

3Dプリンタ製品の販売体制確立に向けた協議を進め、車いす陸上選手用グローブの販売について、車いす陸上選手チームに試作品の無償提供を行ったほか、脊損センターからの受注で「ハンドライフ」（障がいで自由に手が動かせない方のための自助具）を製造販売することとなった。今後も、新しい職域と働き方の開拓に向け、取り組みを継続する。

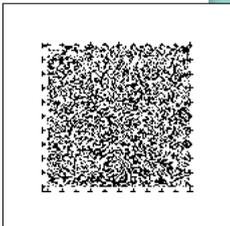
主な経費 3Dプリンタ設置場所使用料、スタッフ人件費、ホームページ作成費、旅費、3Dプリンタの材料費等



私たちがこれまでに3Dプリンタで製作したもの



現場で受講生が3Dプリンタを実演して金閣寺を製作



地域資源のやまももを育て、伝え、商品の魅力を高める協働事業

協議体 那珂川市やまもも育成事業協議会

所 在：那珂川市成竹885-1

〈構成団体と役割〉

- ◆やまももの森プロジェクト
事業全体統括、市民ボランティア窓口
- ◆(株)南畑ぼうぶら会議
事業全般の伴走支援、商品開発・販売
- ◆福岡女子商業高等学校
やまもも育成・商品開発・販売協力
- ◆(株)ホーホウ
全体調整、情報発信・広報
- ◆那珂川市
広報支援
- ◆那珂川市商工会
販路開拓支援
- ◆(株)ブリッジ
収穫のボランティア募集・商品開発・販路拡大サポート
- ◆株式会社愛しと一と
商品販売の際のアドバイス
- ◆日下部中小企業診断士事務所
ホームページ制作、SNS活用

〈問い合わせ先〉

◆やまももの森プロジェクト

住所 那珂川市片縄北4丁目5-5

TEL 090-1340-8320 FAX 092-954-2406

メール miyothanhanahana@outlook.jp



やまももの収穫作業

課題・背景・目的

那珂川市の地域資源として登録され山間部で広く栽培されてきた「やまもも」だが、育成農家の高齢化が進み、栽培する人が激減しており、市民の間でもそのおいしさを知らない人が多くなっている。荒廃の農地の再生と地域活性化を図るため、やまももの森を育てるとともに、やまももを使った那珂川市ブランドの特産品の商品開発を進める。

工夫した点

福岡女子商業高校における「女子商マルシェ」で、学生が主体となってブース出展を行った。仕入れ、広報、経理、販売など一貫して行うことで、高校生にとって貴重な実践的なビジネスの場となった。また、高校生が企画・開発を行ったやまももを使ったキャンディーの試作品の提供も行った。

主な取組内容

昨年に引き続き、市内外のボランティアの協力を得ながら、耕作放棄地におけるやまももの植樹・育成や市内各所のやまももの収穫支援を実施した。また、市内の食品関連企業と連携して商品開発を進めて、様々な特産品販売イベントに参加して商品販売を行った。市の広報に取り上げられた他、ウェブサイトやSNSも活用してPRを行った。

事業の成果・今後の展開

多数の特産品販売イベントに出展するとともに、やまももの収穫作業に延べ120名のボランティアの参加があるなど、取組の支援者拡大を図ることができた。今後も、市民や事業者との協働によるやまももの育成を継続しつつ、自立した事業展開を目指し、収益性の向上や特産品としての定着を図る。

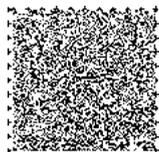
主な経費 消耗品・材料購入費、作業人件費、ホームページ構築費



収穫後の洗浄・選別作業



福岡県庁マルシェでの商品販売



自由提案型 6

日中児童の相互理解、中国人・中国系児童の生活文化向上推進事業

協議体 日中児童多文化交流推進協議体

所 在：太宰府市朱雀3丁目2番16号-206

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人劇団道化
企画・運営、演劇指導
- ◆NPO法人習悦中文学校
中国人・中国系児童への広報・集客

〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人劇団道化

住所 太宰府市朱雀3丁目2-6

TEL 092-922-9738 FAX 092-922-9812

メール info@douke.co.jp HP・SNS等 <https://www.douke.co.jp/>



観劇体験。初めて出会った子ども達と終演後の記念撮影 (そびあしんぐう)

課題・背景・目的

福岡市には約3万5千人の外国人が居住し、その3割が中国人である。中国人・中国系児童は、生活文化の違い、言葉の違いなど、様々な困難の中で生活しているが、交流の機会は一部にとどまっており、その実情はあまり知られていない。多文化共生を進めるためには、幼いころから、多文化、異文化を自然に受け入れる「柔軟な心」を育むことが不可欠である。

工夫した点

「劇づくり教室」への参加児童募集の前に、児童の興味・関心を高める導入として、直接演劇を鑑賞する観劇会を実施した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、スケジュールの変更があったものの、演技指導の中身を組み替えるなど柔軟に対応し、児童の魅力が最大限発揮するように工夫した。

主な取組内容

中国人児童を対象に、全6回の「劇づくり教室」を実施し、演劇を通じて楽しみながら自分を表現するとともに、多文化共生に必要な「相手の思いを想像する」「自分の思いを他者に伝える」力を培った。また、その集大成として3月に成果発表イベントを開催し、多文化共生のきっかけ作りを行った。

事業の成果・今後の展開

発表に向けて演劇の練習に励んだ13名の中国人児童が日ごろの成果を披露した。成果発表会には日本人児童を含む500名を超える児童が参加し、参加した児童からは「練習は大変だったがとても面白かった。」「発表会を見て、演劇を継続したい。」といった声が聞かれ、お互いの違いを尊重する精神を伝えることができた。今後は劇づくり教室に日中双方の児童に参加してもらい、多文化共生の実践の場として継続していく。

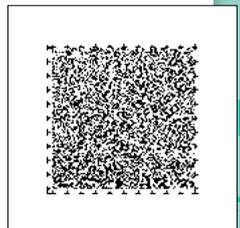
主な経費 演劇指導者人件費、会場使用料など



待ちに待った劇指導の初回
大人も子どももない日中両国語が飛び交う稽古(東箱崎会館)

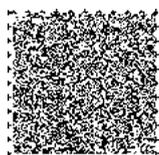
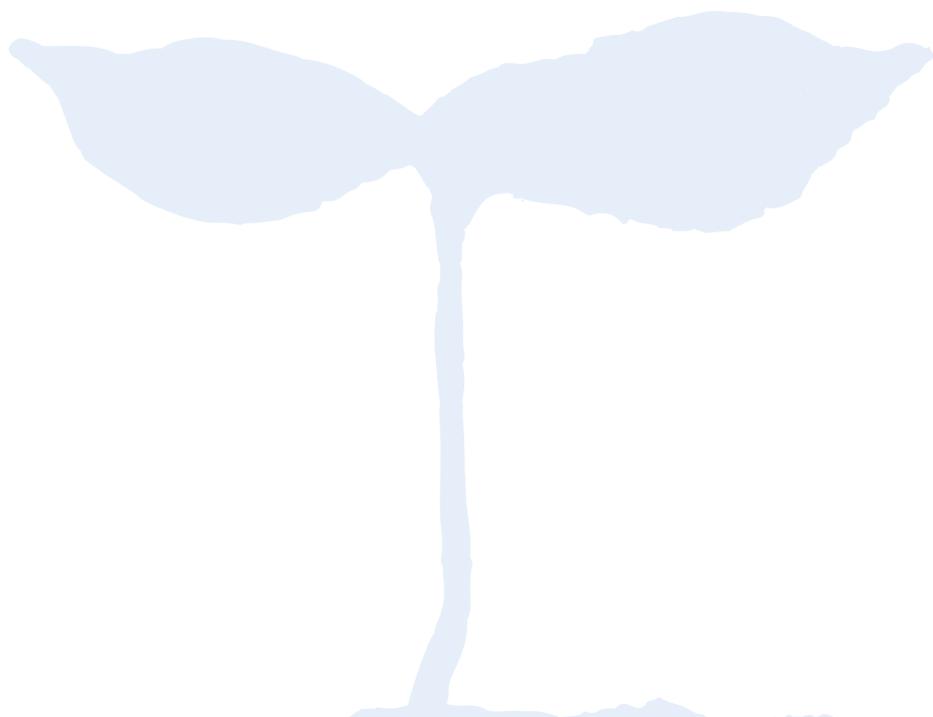


本番の始まり(成果発表会)



テーマ型 災害支援枠

寄附者 九州朝日放送株式会社



テーマ型（災害）1

変わりゆく社会で新たな防災や災害支援の在り方を検討する事業

協議体 災防グ

所 在：朝倉市杷木池田687-3

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人Camp
企画・運営、広報
- ◆久喜宮地域コミュニティ協議会
活動場所の提供、広報

〈問い合わせ先〉

◆一般社団法人Camp

住所 朝倉市杷木池田687-3
TEL 090-3535-3520 FAX 0946-62-0954
メール tsunagi@camp2020.net
HP・SNS等 fb.me/camp2020.net/



災害・ウイルス講座(知る)

課題・背景・目的

コロナ禍において感染を恐れ、避難所への避難を躊躇する事態が発生しており、避難所を運営する側、避難する側の両方の視点からウイルス対策が求められている。また、復旧活動では、県外からのボランティアの受入れが困難となり、活動が思うように進まなかったことから、地域内で支援活動を実施できる人材の育成を行う。

主な取組内容

朝倉市杷木地区において、市役所や社会福祉協議会、市民等に呼びかけ、避難所におけるウイルス対策に関する講習会を実施。その講習会の内容を踏まえ、模擬避難訓練を実施。あわせて、コロナ禍における復旧活動のボランティア不足に対応するため、実際に被災地の支援活動の経験がある人物を講師に招き、実際に使用する機械等を使用した模擬訓練を実施。

工夫した点

事業の計画において、知る(過去)→考える(未来)→体験する(現在)という一連のプロセスを意識し、講習会で学ぶだけで終わらず、実際に避難訓練を行うことで、より実践的な訓練とした。そして、その一連の流れの内容をまとめ、資料化し、県内の関係機関や施設に配布することで、他地域での活用もできるようにした。

事業の成果・今後の展開

計2回実施したウイルス対策に関する講習会には、延べ52人が参加し、模擬避難訓練には41人の参加があるなど、多くの杷木地区の住民が有事の際の対応準備をすることができた。また、復旧活動の訓練内容や反省点をもとに、今後の人材育成計画を作成した。今後は、対象を市外にも拡大し、災害に強い県づくりを目指す。

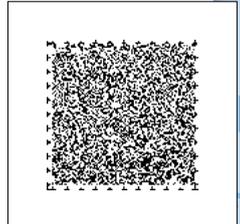
主な経費 謝金、消耗品・材料購入費、人件費など



避難所運営ゲーム<HUG>(考える)



避難訓練(体験する)



情報弱者にグッバイ 「おたすけ手ぬぐい」と心のバリアフリー

協議体 防災バリアフリープロジェクト

所 在：大牟田市新栄町16番地11-1

〈構成団体と役割〉

- ◆大牟田市ボランティア連絡協議会
企画、運営、広報
- ◆特定非営利活動法人 大牟田市障害者協議会
企画、運営、広報

〈問い合わせ先〉

- ◆特定非営利活動法人 大牟田市障害者協議会
TEL 0944-57-7161 FAX 0944-57-7163
メール hotkan@hotmail.jp



「おたすけ手ぬぐい」を用いたロールプレイング

課題・背景・目的

令和2年7月の豪雨の際、障がいのある方への情報伝達やコミュニケーションへの課題が感じられた。また、障がいのある方を対象としたアンケートにおいても、不安な声が寄せられている。そこで、今年度は災害時のコミュニケーションをサポートする「おたすけ手ぬぐい」を、未来を担う子ども達をはじめとする多くの人に広めていく活動を推進する。

工夫した点

言葉で説明するだけでなく、実際に手ぬぐいを用いたロールプレイングを行うことで、障がいのある方への理解を深めた。「おたすけ手ぬぐい」の内容の説明だけでなく、風呂敷や包帯など手ぬぐい自体の機能も併せて説明することで、日本の文化を若者に伝えた。また、手ぬぐいの封入作業を作業所に依頼し、障がいのある方の収入に繋げた。

主な経費 委託費、人件費、旅費など

主な取組内容

障がいごとに必要な支援を記載した「おたすけ手ぬぐい」を広めるため、中学校や高等学校での総合学習の時間に講座を実施。また、市民活動施設等でのイベントに参加し、市民への啓発を行った。大牟田市とも連携して大牟田市総合防災訓練に参加し、手ぬぐいを活用した避難訓練の実施や、「おたすけ手ぬぐい」の紹介ブースを設けた。

事業の成果・今後の展開

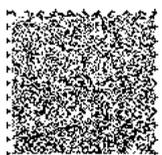
大牟田市内で講座を計7回実施した。また、大牟田市総合防災訓練の際に設けたブースには約80人が来場するなど、多くの人に「おたすけ手ぬぐい」を広めることができた。参加者からは、「こんなグッズがあると助かる!」といった声が聞かれた。今後もより多くの人に知ってもらい、誰もが住みやすいまちにしていく。



大牟田市総合防災訓練ブース来場者



大牟田市総合防災訓練への障がい当事者の参加



テーマ型（災害）3

被災地および未災地における 床下浸水対策ノウハウ普及

協議体 キャンナルプロジェクト2.0

所 在：福岡市中央区天神5丁目5-8-3B ふくおかNPOセンター内
〈構成団体と役割〉

- ◆災害支援ふくおか広域ネットワーク(Fネット)
全体調整、企画・運営支援
- ◆NPO法人つなぎteおおむた
運営、広報
- ◆大牟田市役所 防災危機管理室
大牟田市における運営・広報
- ◆大牟田市社会福祉協議会ボランティアセンター
大牟田市における運営・広報
- ◆飯塚市役所 総務部 防災安全課
飯塚市における運営・広報

〈問い合わせ先〉
◆キャンナルプロジェクト2.0
住所 福岡市中央区天神5丁目5-8-3B ふくおかNPOセンター内
TEL 092-751-6042 FAX 092-751-6043
メール fnet@npo-an.com
HP・SNS等 <https://saigaishienfnet.wordpress.com>



2会場とも講習に際しては原寸大の家屋床下模型を用いた

課題・背景・目的

感染症対策を最優先せざるを得ない状況下では、発災後に域外の支援者を招き入れることが難しくなり、自分たちの力で各種復旧対応を完結させることが必要となっている。福岡県では例年浸水被害が発生しており、被災地だけでなく、未災地においても、いざという時に自己完結で対応できる環境づくりが必要となる。

工夫した点

コンパクトで持ち運びや組み立てが簡単な住宅模型を作成し、講座の際に活用することで、参加者が実際の床下浸水対応の作業を体験することができ、初心者でも分かりやすい内容とした。また、り災証明書の発行など、被災時の手続きについても案内を行い、被災後すぐの対応についても理解を進めた。

主な経費 講師謝金、委託料、人件費など

主な取組内容

大牟田市と飯塚市において、住民向けの床下浸水対応講座を実施。床下浸水時における対応の必要性の判断方法や、排水・消毒・乾燥などの手順及び機材の使用法をレクチャーした。また、今後、県内どの地域で講座を開催しても模型運搬に過重な負担がかからないよう、新たに家屋模型を作成し、県北地域に保管することとした。

事業の成果・今後の展開

大牟田市での講座では41人、飯塚市では49人の参加があり、多くの住民が床下浸水の対応について学ぶことができた。今後も継続して住民向け講座を県内各地で実施し、住民の防災意識や床下浸水に対する対応力を高め、いざという時に自分たちの力で対応できる地域づくりを進めていく。

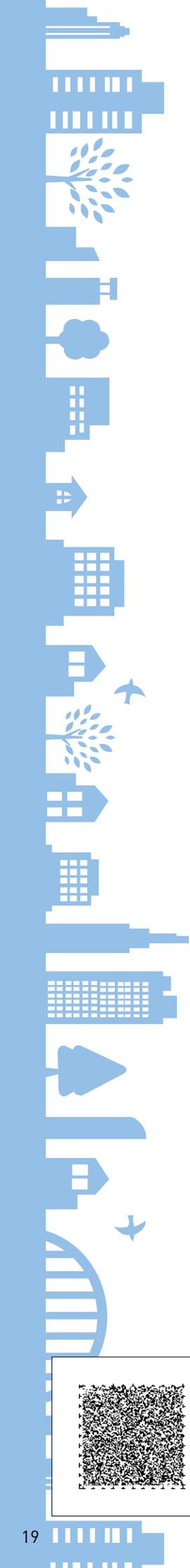


大牟田会場での講習風景



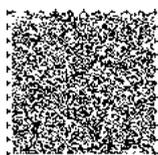
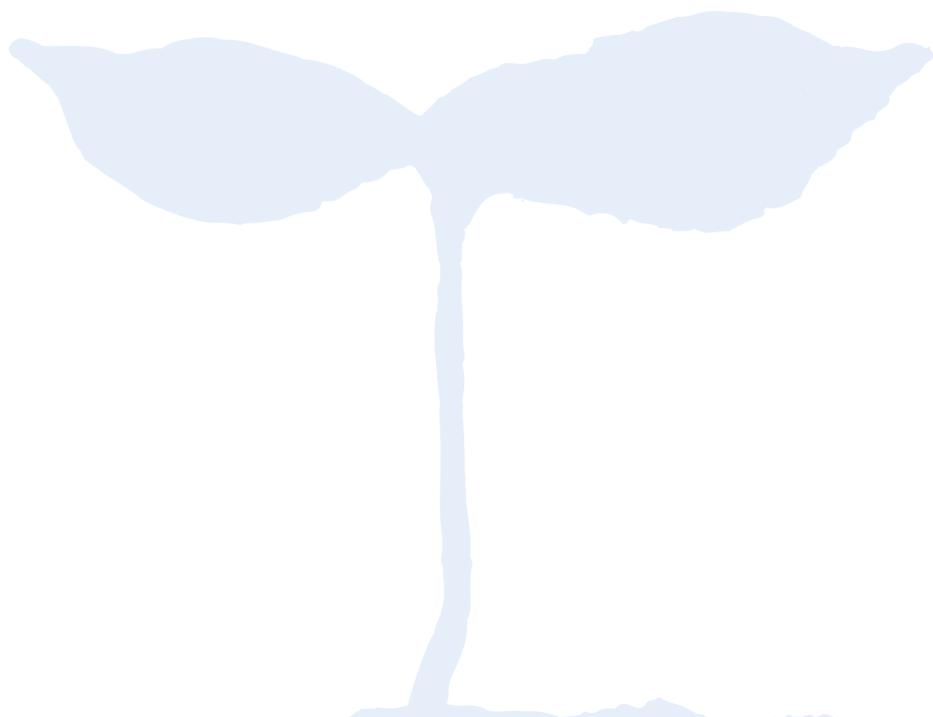
飯塚会場での講習風景。飯塚では初めての開催となった





テーマ型 困難な状況にある子どもの支援枠

寄附者 西日本電信電話株式会社九州支店



テーマ型（子ども）1

子どもの居場所「スペース虹」事業

協議体 スペース虹協議体

所 在：大野城市上大利2-15-34

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人エンパワメント福岡
企画運営
- ◆大野城学習支援室・かぼちゃ
事業全般への助言、学習支援の協力
- ◆スペース虹
企画運営

〈問い合わせ先〉

- ◆特定非営利活動法人エンパワメント福岡

住所 大野城市上大利2-15-34

TEL 070-5698-7416 FAX 092-519-6580

メール empower@csf.ne.jp

HP・SNS等 <http://empower-f.main.jp>

子どもたちの居場所の風景

課題・背景・目的

子どもの貧困や不登校といった社会問題はますます深刻になっており、大野城市においても就学援助を受ける子どもや、不登校生は増えている。フリースクールにも通わず引きこもる子どもや、そのことに悩む保護者も多い。厳しい環境にある子どもと保護者が安心でき、外に出るきっかけとなるような第3の居場所が必要とされている。

工夫した点

コロナ禍で食事の提供ができない場合には、利用者に食材を持ち帰ってもらったりするなどして、経済的に困難な状況にある家庭の支援に繋がった。また、発達に課題のある子どもにはマンツーマンで学習支援を行うなど、子どもに合わせた支援を行うため、大学生などのボランティアの参加を呼び掛け、支援者を増やした。

主な取組内容

市内の古民家にて不登校や生活困窮の子どもを対象に居場所「スペース虹」を運営。水曜日、日曜日に食事・学習・体験等を支援する場を設けるとともに、子どものことで悩む親への相談にも対応。また、今年度からは、土曜日に発達に課題のある子どもの学習支援を開始し、支援の幅を広げた。

事業の成果・今後の展開

スペース虹を水曜、土曜、日曜に計117回開催し、のべ524人の参加があった。中でも、発達に課題のある子どもの利用者はのべ83人となり、利用希望者も増えているため、継続した支援を続けていく。今後も子どもに様々な経験してもらう機会を設け、外出するきっかけとなるような、子どもの居場所づくりを続けていく。(数値は1月末現在)

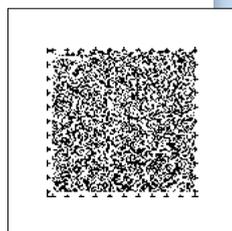
主な経費 居場所使用料、スタッフ旅費、消耗品費など



ご飯タイムです



土曜教室の学習の様子



子どもと家庭と地域の循環事業

協議体 カルドキッチン

所 在：福岡市南区長住2-4-29

〈構成団体と役割〉

- ◆NPO法人musicGate
全体企画・運営・広報、会場の提供
- ◆NPO法人太宰府アートのたね
造形イベント企画・講師
- ◆ごきげんや
企画・運営・広報

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人musicGate

住所 福岡市南区長住2丁目4-29

TEL 090-6429-9543

メール musicgate222@gmail.com

HP・SNS等 musicgate222(Instagram)



プリン・肉まん・ピザ・タルトケーキ作ってまーす

課題・背景・目的

コロナ禍で学校や地域でのイベントが減り、子どもたちの体験の機会が奪われた。人と接する機会も少なくなり、マスクをした状態でしか人と会わなくなることで、コミュニケーション能力も低下している。子どもたちが協力する心やコミュニケーション能力を身に着け、親子や地域での会話を増やすきっかけが必要とされている。

工夫した点

おやつを作り、食べ、片付けまでの一連の流れを子どもたちが自ら行うことで子どもの自信や達成感につなげ、自己肯定感を高め、親子で参加してもらうことで親子間のコミュニケーションを増やすきっかけをつくった。また、おやつ作りの前後に音楽や芸術に触れる機会を設け、普段、音楽等に触れる機会があまりない人も気軽に参加できるようにした。

主な取組内容

毎月第2日曜日に親子や地域住民を対象とした、子どもの居場所づくりを実施。子どもの居場所では、クッキーやタルト、肉まんなどのおやつ作りのほか、歌やピアノの演奏会や音楽体験、造形ワークショップ、食育講座などを実施し、子どもたちが様々な体験を通し、個々を認め合う事を知る場を設けた。

事業の成果・今後の展開

子どもの居場所づくりは計8回実施し、参加人数は延べ大人28人、子ども71人となった。参加者からは親子間での会話が弾み、子どもにとっても貴重な経験となっているとの声が寄せられた。今後も、継続して子どもの居場所づくりを行い、多くの子どもたちが興味を持って参加してくれるような、わくわくする体験の場を増やしていく。

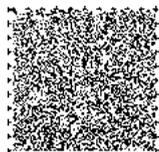
主な経費 人件費、消耗品・材料購入費、使用料など



クッキー作り かわいいお手々でクルクル



音のプレゼント《二重唱とピアノ》



テーマ型（子ども）3

私をキャンプに連れてって！ 東峰村での日帰りキャンプと農業体験

協議体 里山で育む子どもの生き抜くカプロジェクト実行委員会

所 在：大野城市白木原1-14-22

〈構成団体と役割〉

- ◆認定NPO法人チャイルドケアセンター
企画・運営、こども食堂の開催
- ◆筑紫女学園大学大西良研究室
学生ボランティアの募集、不登校児童生徒への周知
- ◆東峰村えんプロジェクトの会
東峰村での体験活動企画・運営
- ◆エコープ生活協同組合
こども食堂で提供する食品の分配・保管管理、広報
- ◆西松建設株式会社九州支店
こども食堂開催場所・食材保管場所の提供



ヤマメの養殖場で東峰村えんプロジェクトの会代表の説明を聞く参加者

〈問い合わせ先〉

◆認定NPO法人チャイルドケアセンター
住所 大野城市白木原1-14-22
TEL 092-502-8822 FAX 092-502-8855
メール somu@npo-ccc.net HP・SNS等 <https://npo-ccc.net/>

課題・背景・目的

核家族化の進行や、共働き・ひとり親家庭の増加に伴い、親子時間、多世代間の交流、子どもたちの社会体験機会の減少が課題となっている。一方で、九州北部豪雨災害の被災地である東峰村では、人口の減少と高齢化が進んでいる。そこで、東峰村での体験活動を行うことで、子どもたちの体験機会を創出するとともに、人口減少が進む村の関係人口を増やし、地域の活性化を図る。

工夫した点

東峰村における里山体験・自然体験に参加した子どもたちが、こども食堂において自然の中で育てられた食材が目の前で調理され、それを食することで、自然環境の循環を自分の体験として感じることができるようにプログラムを組み立てた。また、こども食堂では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため食堂への入室人数制限や一方向を向いての食事などを行った。

主な経費 人件費、旅費、通信運搬費など

主な取組内容

筑紫地区の子どもたちを対象に、東峰村においてカボチャとヤマメの生育観察等の里山体験や日帰りキャンプ体験を実施。後日、大野城市においてカボチャの販売体験を行った。また、大野城市のこども食堂において、東峰村のカボチャやヤマメを使った料理を実際に食べる場を設け、地域交流を行った。

事業の成果・今後の展開

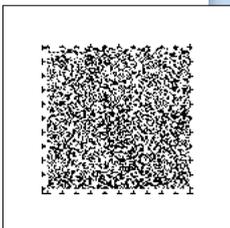
事業全体を通して、130名の子どもとその保護者の参加があった。参加者からは、被災した東峰村の復興の現場や、ヤマメの生育環境を実際に見ることができ、良い機会となったとの声が寄せられた。今後も、本事業で得られた地域同士のネットワークを活用し、子どもたちの体験機会を創出する活動を継続して実施したい。



東峰村のキャンプ場交流館で地元の食材を使ったバーベキューランチ



大野城市のこども食堂で
ヤマメの炭火焼きの様子を興味深く見る子ども達



お問い合わせ・アクセス

住 所：〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7

連絡先：TEL ☎ 092-643-3938 FAX ☎ 092-643-3848

MAIL ✉ kyodo@pref.fukuoka.lg.jp

アクセス：JR「吉塚」駅より徒歩約8分／西鉄バス「県庁前」バス停より徒歩約1分
福岡市営地下鉄「馬出九大病院前」より徒歩約5分

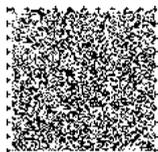
■ 福岡県共助社会づくり基金

<https://www.kifu.pref.fukuoka.lg.jp/>



福岡県

コラボステーション福岡
(人づくり・県民生活部社会活動推進課)



※この冊子はイオン九州株式会社、株式会社ダイエー、トヨタL&F福岡株式会社、大坪GSI株式会社、西日本電信電話株式会社九州支店から福岡県共助社会づくり基金への寄附金を活用して作成しています。

福岡県行政資料	
分類記号 JA	行政コード 5200116
登録年度 04	登録番号 0001